

2024年7月19日

## 国際的広告賞 LIA において、佐々木 康晴が エボリューション部門およびクリエイティブ・ユース・オブ・データ部門の 2部門において審査員長に選出

電通グループ（ブランド：「dentsu」、本社：株式会社電通グループ、拠点：東京都港区、代表者：代表執行役 社長 グローバル CEO 五十嵐 博、以下、dentsu）のグローバル・チーフ・クリエイティブ・オフィサー 佐々木 康晴が、2024年9月29日～10月7日まで現地審査が開催される国際的広告賞「London International Awards (LIA。ロンドン・インターナショナル・アワーズ)※」のエボリューション部門とクリエイティブ・ユース・オブ・データ部門の2部門において、審査員長に選出されました。



本年のLIAは全29部門から構成され、厳正な審査を経て受賞作品が決定されます。審査の過程は透明性も担保されており、審査員長はDEI視点も加味して選出された各審査員をリードし、作品がいかにクリエイティビティ溢れるアイデアであるか、さらにそのエグゼキューションの完成度を議論する中心的な役割を担います。

佐々木が審査員長を務めるエボリューション部門は、現状から脱却し新たな障壁を打ち破りエボリューション（進化・前進）を示す作品を評価し、クリエイティブ・ユース・オブ・データ部門はクリエイティビティの向上にデータ活用が貢献した作品を評価します。

佐々木は、「データをアイデアの力で料理すると、イノベーションが起きやすくなります。クリエイティビティはその領域を広げれば広げるほど、エボリューションが起きやすくなります。このワクワクする2部門を審査させてもらえるのはとても光栄なことです。」とコメントしています。

※ LIAは、1986年にロンドン・インターナショナル・アドバタイジング・アワーズ（LIAA）を前身として創設され、2004年からは賞の名称から「アドバタイジング（広告）」を外し、よりクリエイティブなアイデアとエグゼキューションを評価する賞として生まれ変わりました。例年、米国・ラスベガスで現地審査を開催し部門各賞を発表した後、約1か月かけて各社の受賞ポイントを計算し、本年は11月7日にグローバルおよびリージョナルのオブ・ザ・イヤー賞等が発表予定です。

URL：<https://www.liaawards.com/>

以上

【本件に関する問い合わせ先】

株式会社電通グループ グループコーポレートコミュニケーションオフィス 小嶋、島津

Email : [group-cc@dentsu-group.com](mailto:group-cc@dentsu-group.com)